

令和 2 年 4 月 27 日現在

機関番号：12701

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16K03895

研究課題名（和文）企業の淘汰のメカニズムと要因に関する実証的研究

研究課題名（英文）Empirical Study on Mechanism and Factors of Selection of Companies

研究代表者

高井 文子（Takai, Ayako）

横浜国立大学・大学院国際社会科学研究院・教授

研究者番号：10408693

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、企業の淘汰が起こるメカニズムと要因を、定量的かつ経時的な分析により明らかにすることを目的とした研究である。企業の生存に対していかに経営者のパワー（CEO power）が働いているかという点について日本のオンライン証券業界を対象として分析を行ったところ、撤退という意思決定をしたり、重大な戦略的意思決定を下したりするためには、経営者のパワーが強い方が望ましいことが定量的、定性的な研究によって明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果は、経営戦略論やイノベーション論の分野へ貢献すると同時に、オンラインビジネスを手がける企業の戦略構築や日本のオンラインビジネス全体の発展に寄与することが期待される。また、当該研究を含む一連の研究の集大成として出版した『インターネットビジネスの競争戦略』（有斐閣）は、2018年度日本経営学会賞（著書部門）を受賞した。

研究成果の概要（英文）：In this research, we analyze how CEO power affects the survival of enterprises in Japanese online securities industry. According to the results of the analysis, the stronger the influence of management, the more positive the relationship with withdrawal was found. On the other hand, there was no influence of distress which has a big influence on enterprise survival.

研究分野：経営学

キーワード：経営戦略 イノベーションマネジメント

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

1990年代後半から成長を続けてきたオンラインビジネスは、日本はもちろん、全世界で企業経営に大きな機会を与えてきた。オンラインビジネスの成長に伴って、経営学的な観点からも研究が行われるなか、研究代表者は、日本を代表するオンラインビジネスであるオンライン証券業界について研究を重ね、競争戦略論やイノベーション論の研究分野に関連する数々の学会報告や査読誌での成果報告を行っていた。

研究代表者の一連の研究においては、戦略的な側面が企業パフォーマンス(口座数、入出庫、生存)にいかなる影響を与えるかということについて示してきたものの、説明変数あるいは環境等のコントロール変数で制御しきれなかった、「企業特殊の要因が何であるか」を説明しきれないことが課題として残っていた。

一方で、こうした企業特殊の要因については、インタビューや文献調査による定性調査において、極めて強いCEOのパワーや、機動力の高い経営体制などが成功に関係しているということが示唆されていた。

既に、企業の生存やパフォーマンスにガバナンス要因が与える影響については、ファイナンスや組織論の分野で研究がされていたが、あくまでも所有構造をコントロール要因の一部として検討していたり、コーポレートガバナンス領域による分析であり、いわゆる会社機関の構成や機能と「企業生存」との因果関係を明示的に検証した例は少なかった。さらに、いくつか存在する研究においても、取締役会やCEOのパフォーマンスの生存への影響を分析したのみで、戦略的な側面の検討はされておらず、オンラインビジネス業界での競争に議論をそのまま援用できるかどうかは定かではなかった。

以上のような問題意識に立脚し、世界的に見ても類を見ないほど目覚ましい発展を遂げているながらも、依然として更に進化しつつある日本のオンライン証券業界を対象にして、これまで以上に多様で精緻な変数を設定した定量分析を行うとともに、丁寧な定性的分析と海外比較によってその意義と普遍性を確認していきたいと考え、本研究を着手するに至ったものである。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、企業の淘汰が起こるメカニズムと要因を、定量的かつ経時的な分析により、明らかにすることである。具体的には、日本のオンライン証券業界を対象として企業の生死にするイベントヒストリ分析を行うことで、実施した戦略・トップマネジメント・財政状況等のいかなる要因が影響したかというメカニズムを、企業の成長段階や時期に対応させながら明らかにし、そこからオンラインビジネスにおける知見を得ることにある。

### 3. 研究の方法

本研究では、定量分析：既存研究より導出した研究の精緻化を重ねるとともに、日本のオンライン証券会社を対象として統計的な手法(イベントヒストリ分析)を用いて定量的に分析し、定性分析：日本企業ならびに主要な海外事例の定性的な側面を慎重に検討しながら分析を修正・補強し、さらに、発信：実務家や研究者と議論を重ねながら分析や研究の精度を高めて、学会や査読誌での報告を行う、という3つのステップにて実証研究を進めた。

28年度は、「既存研究より導出した研究の精緻化を重ねるとともに、日本のオンライン証券会社を対象として統計的な手法(イベントヒストリ分析)を用いて定量的に分析」作業に充てた。これと並行して、研究を成功させるために最重要となる仮説構築の精緻化を行う。既に作業仮説は前項で挙げているが、既存研究、これまでの研究代表者の研究、ならびに業界データを元に導出さらに検討を加えることを中心的な作業とした。

このようにしてデータ整備と仮説構築を行ったのちに、イベントヒストリ分析を行った。本研究では、説明変数(戦略・トップマネジメント・財政状況)ならびにサンプル数が相当な数となるため、慎重な分析が必要であった。具体的には、多重共線性の適切なコントロールや、戦略と変数との対応の検討に、相当の工数を見積もることが必要であった。

29年度は、引き続き「日本企業ならびに主要な海外事例の定性的な側面を慎重に検討しながら分析を修正・補強する」作業を行った

まず、オンライン証券業界の主要企業7社の定性データの収集、検討、インタビュー調査を行った。また、米・中・韓のオンライン証券業界の動向をも踏まえて、検討を行った。

これらの議論や情報をもとに、前年度に行った調査の変数の検討や再分析を行った。こうした作業を、前年度に行ったイベントヒストリ分析に反映させて修正分析を行うことで、企業の生死に与えた要因分析の様相について実態に即した極めて興味深い分析を行うことができた。

30年度は、定量的な分析と定性的な分析とを有機的に結合させるべく議論を行い、分析の精度を高めていきながら、研究会や学会での報告を行っていく期間にあてた。

具体的には、28年度ならびに29年度の分析結果を基として、より普遍的な要因を検討しつつ再分析を行うなど、研究の精度を上げるとともに、オンライン証券業界の担当者や研究会等でのディスカッションを重ねていくことで、実務的・学術的な意義を検証していった。

このような活動を進めるなかで、査読誌のフィードバックや、研究報告において、当該分析の精度を上げる活動を継続する必要性が生じた。そのため、研究の延長を申請し、令和1年度にお

いて、日本証券経営研究会や、日本経営学会といった研究会、学会においてディスカッションならびにジャーナルへの投稿を精力的に行った。

#### 4. 研究成果

##### (1) 研究で得られた主な成果

日本のオンライン証券業界では、ドミナント・デザイン形成の前後で、典型的なシェイクアウトは生じなかった。実質的には競争から脱落しつつも、細々とオンライン証券サービスを提供し続ける企業が多かったためである。

こうした環境の下で、経営者のパワーが企業の経営にどのような影響を及ぼしたのかを調べた結果、「撤退」という意思決定をしたり、「本当の意味で生存する」ための重大な戦略的意思決定を下したりするためには、経営者のパワーが強い方が望ましいことが分かった。

前者、すなわち「経営者のパワーは撤退の意思決定を進めた」という点は、先行研究とは逆の結果である。この背景には、日本企業では、参入の意思決定に比べて、撤退の意思決定のほうがより調整が難しく、比較的先延ばしされがちであるという事情が関係しているのかもしれないと推定される。撤退の意思決定は、本当に瀬戸際の状況に追い込まれないと、極めて難しい。そのため、経営者のパワーがないと、撤退もできずにずるずると経営を続けて、資源の塩漬け状態に陥りやすいのであろう。国内金融機関系に関しては、親会社の金融再編という別の力が働いたため、戦略的な撤退としての合併が可能であったが、そうでない場合は、経営者のパワーが撤退を後押ししたのだと考えられる。

一方、後者の結果、すなわち「経営者のパワーは重大な戦略的意思決定を進めた」という点は、「変化のスピードが速く不確実性の高い環境下では経営者のパワーが強い方が望ましい」とする先行研究の結果と整合的であった。信用取引など、企業にとっては採用にリスクもあるが、その時期においておそらく正しいと思われる戦略を果敢に採用するには、経営者にパワーが備わっていなければならなかったのだと考えられる。また、こうした経営者のパワーがもたらす変化への対応力は、経営状況の悪化を防いでいたのだと考えられる。

##### (2) 本研究にて得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

本研究の成果は、経営戦略論やイノベーション論の分野へ貢献すると同時に、オンラインビジネスを手がける企業の戦略構築や日本のオンラインビジネス全体の発展に寄与することが出来たと考える。本研究の成果として、論文は8編（うち査読ありは4編）、書籍1冊、研究報告は10本である。これらの研究は、多くの引用や書評に採り上げられるなど、当該分野に大きな影響を与えることとなった。その成果をたたえるものとして、当該研究を含む一連の研究の集大成として出版した『インターネットビジネスの競争戦略』（有斐閣）は、2018年度日本経営学会賞（著書部門）を受賞した。

##### (3) 今後の展望

このように成長を続けてきたインターネットビジネスでは、現在、イノベーションの段階の移行がさらに進んでいる。こうしたイノベーションの段階が移行するに従って、企業間競争がどのように変化するのか、必要とされる戦略や、経営者や企業の能力やスキルといったものがどのように変化するかという点についての議論は、既存研究においても盛んに行われてきた。しかし、「インターネットビジネス」や「金融業などのサービス業」における定量的・定性的な実証分析の蓄積は十分ではないといえる。

そこで研究代表者は、令和2年度から科研費（課題番号20K01908）において、2つの問いを明らかにしていく予定である。第一は、「イノベーション・プロセスの段階の固定期に至る段階において、どのような戦略が有効であったかという点について定量的に分析する」ことである。第二は、「新たに立ち上がりつつあるインターネットビジネス、なかでもインターネット金融業界の黎明期の競争を定量的・定性的に把握する」ことである。

上記の課題を精力的に行うことで、引き続きインターネットビジネスについて、実証的な研究の蓄積を重ね、これまでの一連の研究で明らかになったメカニズムの普遍性を検討していくとともに、既存研究で説明されていない点について検討していきたいと考えている。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 高井文子	4. 巻 第40巻2号
2. 論文標題 黎明期の企業競争における企業生存に対する経営者の影響力	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 横浜経営研究	6. 最初と最後の頁 33-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 高井文子	4. 巻 第43巻
2. 論文標題 インターネットビジネスの競争戦略	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本経営学会誌	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 高井文子	4. 巻 第38巻第1号
2. 論文標題 サービス産業とAbernathy - Utterbackモデル - オンライン証券業界におけるイノベーション・プロセスの進展と競争 -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 横浜経営研究	6. 最初と最後の頁 49-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Ayako Takai	4. 巻 Vol.16, No.3
2. 論文標題 Analyzing the Phenomenon of a “Shake-out”	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Annals of Business Administrative Science	6. 最初と最後の頁 103-114
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） <a href="https://doi.org/10.7880/abas.0170222a">https://doi.org/10.7880/abas.0170222a</a>	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高井文子	4. 巻 6巻1号
2. 論文標題 企業の淘汰のメカニズムとその要因	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 組織学会大会論文集	6. 最初と最後の頁 94-99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) <a href="https://doi.org/10.11207/taaos.6.1_94">https://doi.org/10.11207/taaos.6.1_94</a>	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高井文子	4. 巻 第51巻第1号
2. 論文標題 模倣・追隨の二面性：日本のオンライン証券市場黎明期における企業間競争の実証的分析	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 組織科学	6. 最初と最後の頁 46-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) <a href="https://doi.org/10.11207/soshikikagaku.51.1_46">https://doi.org/10.11207/soshikikagaku.51.1_46</a>	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ayako Takai	4. 巻 16(1)
2. 論文標題 What Kind of Companies Are Withdrawing?: The Case of the Japanese Online Securities Industry	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Annals of Business Administrative Science	6. 最初と最後の頁 41-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) <a href="http://doi.org/10.7880/abas.0161220a">http://doi.org/10.7880/abas.0161220a</a>	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高井文子	4. 巻 37(3-4)
2. 論文標題 市場黎明期における競争と学習の「盲点」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 横浜経営研究	6. 最初と最後の頁 47-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 高井文子
2. 発表標題 インターネットビジネスの競争戦略
3. 学会等名 日本経営学会第93回大会 日本経営学会賞セッション（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高井文子
2. 発表標題 インターネットビジネスの競争戦略
3. 学会等名 日本証券経済研究所 証券経営研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高井文子
2. 発表標題 令和の時代を生き抜くために-イノベーションで持続的な競争優位を-
3. 学会等名 山形大学シニアインストラクター養成スクール修了式・記念講演（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高井文子
2. 発表標題 オンライン証券の独自性の構築メカニズムと模倣の二面性
3. 学会等名 早稲田大学IT戦略研究所ワークショップ（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高井文子
2. 発表標題 インターネットビジネスの競争戦略
3. 学会等名 東大アウトリーチ企画：著者と読む経営学
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高井文子
2. 発表標題 企業の淘汰のメカニズムとその要因
3. 学会等名 2017年度組織学会研究発表大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ayako Takai, Fuyuko Kido
2. 発表標題 IoT startup support by Japanese "super" industrial clusters
3. 学会等名 ABAS Conference 2017 Summer Part3 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Ayako Takai
2. 発表標題 The Impact of the CEO in Survival of the Companies in Early Stage Competition, "
3. 学会等名 ABAS Conference 2016 Autumn part3 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Ayako Takai
2. 発表標題 Shakeout and Oligarchization
3. 学会等名 ABAS Conference 2017 Winter part2 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高井文子
2. 発表標題 黎明期における企業間競争-オンライン証券業界の事例-
3. 学会等名 「第十回 産業・企業の競争力に関する研究会」経済産業省 (招待講演)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 高井 文子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 310
3. 書名 インターネットビジネスの競争戦略	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----